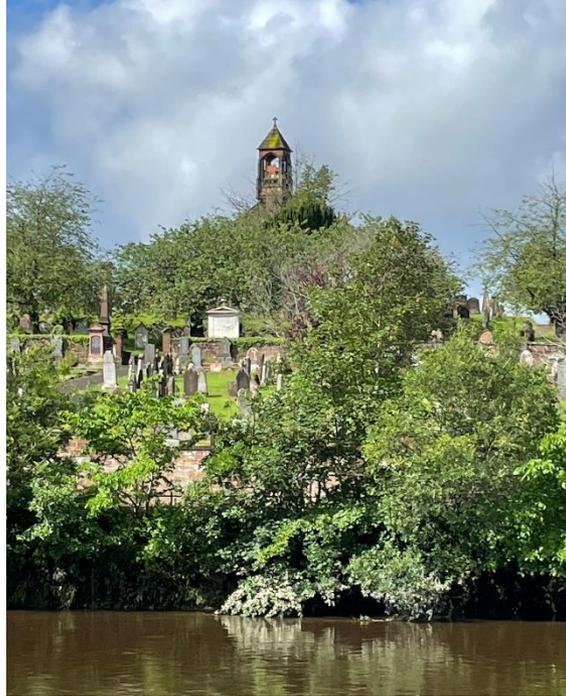


第8回オレンジクロスシンポジウム

2022年7月15日（金）15-18時

弱さのちからが生み出すつながり
～コンパッションにささえられるまちを考える～

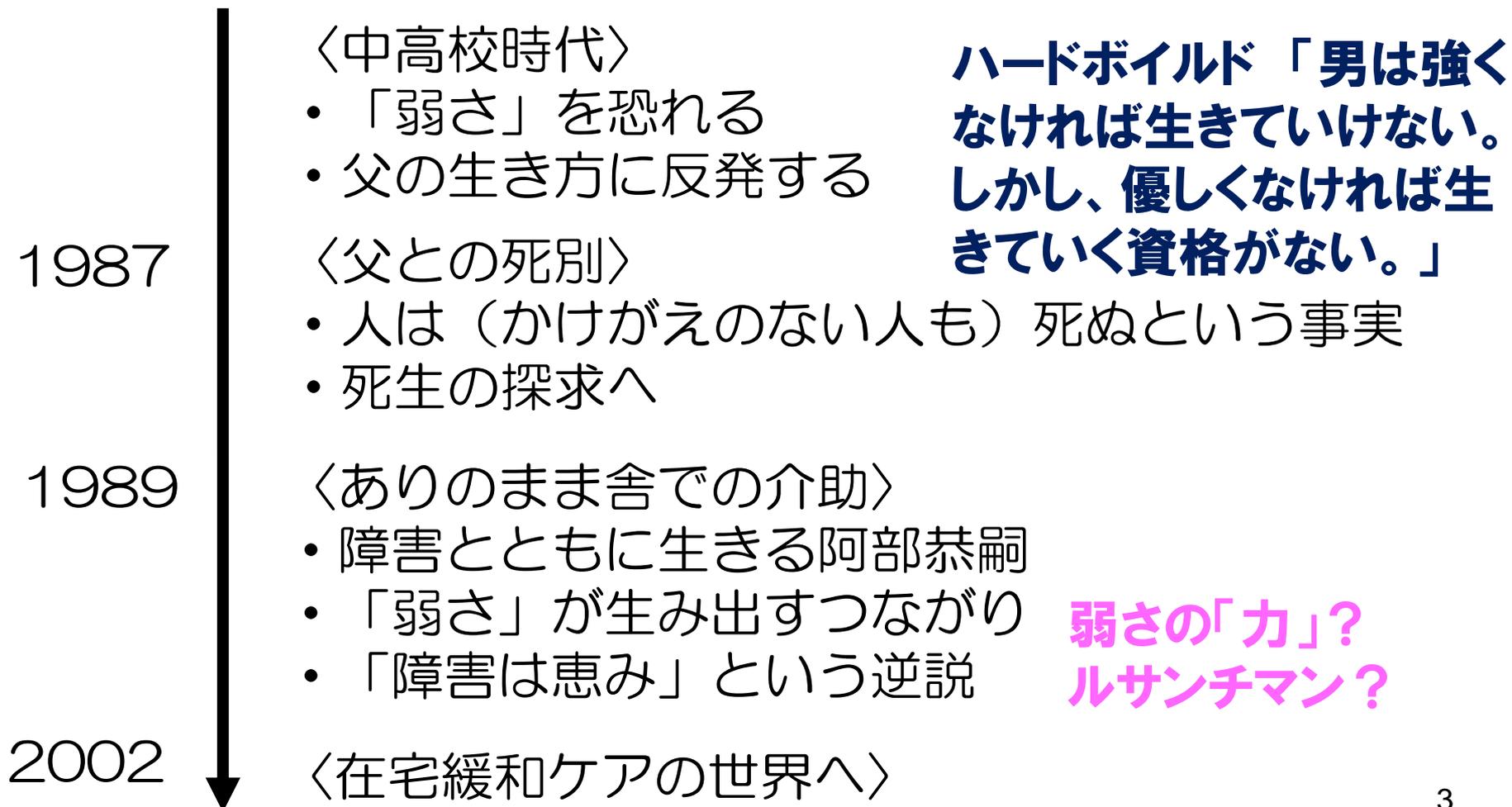


Now in University
of Glasgow,
Dumfries campus



弱さとともに生きる？

～テーマに沿った自己紹介～



2008

〈死別と誕生〉

- 阿部恭嗣との死別
- 竹之内光嗣の誕生
- 障害を「共に」受けとめて生きるというチャレンジ



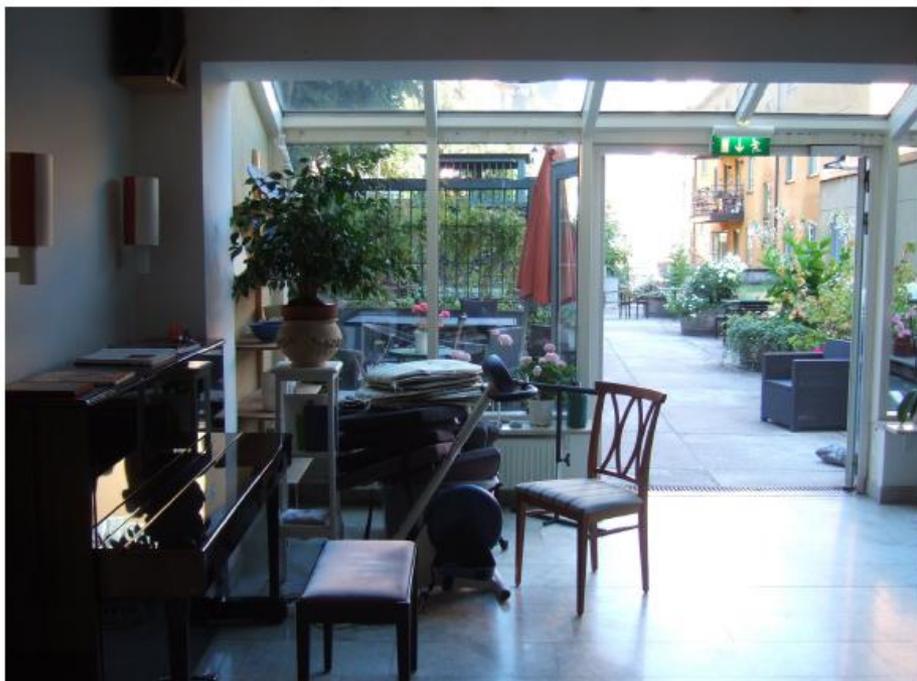
立岩真也『弱くある自由へ』(2010年)
弱くある「自由」?

2011
-12

〈スウェーデンの生活〉

- 「他者」とともに生きることに挑戦する社会
- 自他を同化から解放する学び
- 「対話」のレッスン
- 「障害は恵み」という実感

哲学カフェ
(2013-9)
死生学カフェ
(2015-)
哲学塾
(2019-)
風待ちカフェ
(2022-)



ストックホルムのカフェにて, Photo by Hirohumi Takemochi, 2011

死生学カフェ

死生学カフェは

生きること

死にゆくこと

かけがえのないものを失うことなど

生と死にかかわる

多様な課題について

出会いと探究の姿勢を大切にしながら

対話を試みる場所です。

2022.4.23 (sat) 15:00-18:00

7.23 (sat) 15:00-18:00

10.22 (sat) 15:00-18:00

2023.1.28 (sat) 15:00-18:00

お問い合わせ: shtsetgakucafe@gmail.com

<https://www.shtzuoka.ac.jp/shtsetgakucafe/>

facebook: 「死生学カフェ」で検索してください。

主催: 死生学カフェ世話人

世話人代表: 竹之内裕文(静岡大学)



Kant and Friends at Table, Painting by Emil Doebering, c. 1900

哲学塾

江戸時代の塾の伝統を受け継ぎ、塾頭のリードのもと、参加者でテキストを会読するというスタイルで進めています。

2022年度の会読テキストは、カントの著書です。ご自分にとって読みやすい訳書をご用意ください。

読まずに死ぬるか!

哲学の古典・名著にチャレンジ

2022.6.4 カント『世界市民という視点からみた普遍史の理念』

9.3 カント『啓蒙とは何か』

12.3 カント『永遠平和のために』

2023.3.4 カント『プロレゴメナ』先験的主要問題 第一部まで

〈開催日〉6月4日, 9月3日, 12月3日, 3月4日
(第一土曜) 13:00~17:00

〈開催形式〉Zoomによるオンライン開催

※新型コロナウイルスが終息した場合、英生研学習センターで開催予定。詳しくは生研学習センターHPをご覧ください。

〈申込み〉英生研学習センター
<https://sgc.shizuoka-city.jp>



(お問い合わせ (内容)) 静岡大学 理学部 哲学研究室 竹之内裕文 (教授)
TEL 054-238-4826

静岡大学理学部哲学研究室 英生研学習センター 共催事業

あなたは、
どんな風を待っていますか

風待ちカフェ

2022

いい風が吹いてこない、船は港を出ていきません。
悪い風が吹いて、暴風が吹きすすんでいても、出ていきません。
いい風が吹くまで、船は港でじっと待ちます。
それが「風待ち」です。

人生の航海にも、風待ちがあります。
風待ちのみならず、
松崎港をのぞみながら、それぞれの風待ちについて話してみませんか。
風待ちカフェでお会いしましょう。

創設記念回 3月26日(土)
第1回 5月28日(土)
第2回 11月12日(土)

時間：11:30～14:00(受付：11:00～)
会場：伊豆まつざき荘 2階レストラン
会費：一般1,000円/学生500円
飲み物&デザートつき、当日受付にてお渡しください
事前申し込み不要

風待ちカフェ

詳細：風待ちカフェ
<https://www.shizuoka.ac.jp/kazemachi/>
電話人代表 竹之内裕文
Tel. 054-238-4826 (静岡大学哲学研究室)

伊豆まつざき荘

宿泊・アクセス：伊豆まつざき荘
<https://izu-matsuzakisou.com>
〒410-3624 静岡県賀茂郡松崎町江奈210-1
Tel. 0558-42-0450



一緒にミライの松崎をつくりましょう！

2030松崎プロジェクト

町民のみならず、松崎町を望む幅広い層から多岐にわたる、松崎町、静岡大学、松崎町観光協会、伊豆半島ジオガイド協会の4機関が連携して発案した「2030松崎プロジェクト」。『2030松崎（未来の松崎）』に基づいたチームでの活動を開始しています。途中からの参加も大歓迎！参加を希望される方は「参加フォーム」よりお申込みください。

- 2022.03.05 2021114松崎町中間発表会シヨートム（バーベキュー）
- 2022.03.17 [3Dイメージ](#)に「第10回 松崎町ビジョンワークショップ」の発表）参加
- 2022.03.18 [3Dイメージ](#)に「第10回 松崎町ビジョンワークショップ」の発表）参加
- 2022.03.09 今後のワークショップについてのお知らせ（予定変更）



今後のワークショップの予定
2022年7月20日(月)～チーム成果発表会
3月27日(月)・4月17日(月)・5月25日(月)・6月14日(月)
詳細は上記PDFを参照ください。



2021年11月14日「中間発表会」のシヨートム（バーベキュー）

〈アラン・ケレハーとの出会い〉

- ニアミス (2004年 東京大学)
- 出会い (2013年 DDD学会)
- 再会 (2019年 Bradford近郊)
- コンパッション都市・コミュニティとの出会い



コンパッション→同情(Mitleid)

松崎町まちづくりアドバイザー (2022)

ちなみに原語を調べると.....

If I wasn't hard, I wouldn't be alive.
If I couldn't ever be gentle, I
wouldn't deserve to be alive.
(Raymond Chandler)

「タフな」「堅固な」／「寛大な」「丁重な」



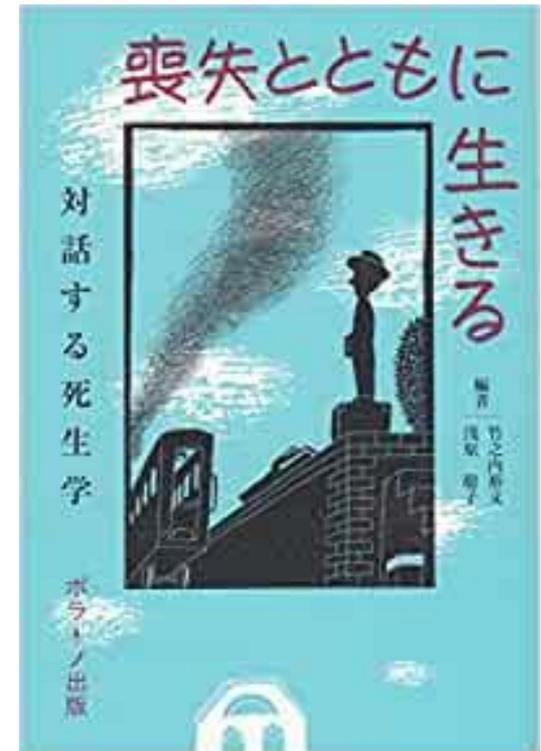
人間であることに内包される「弱さ」(vulnerability)と向き合い、これとともに生きる可能性と知恵を探求してきた。



限界がある(～ないだらけ)



死すべきものである(mortality)



別れ・喪失を免れない

Compassionate Cities

Public health and end-of-life care



Allan Kellehear

Allan Kellehear,
*Compassionate Cities, Public
Health and End-of-life Care*,
Routledge, 2005



『コンパッション都市 公衆衛生と終末期ケアの融合』アラ
ン・ケレハー著、竹之内裕文・
堀田聡子監訳、慶應義塾大学出
版会、近刊

竹之内裕文、死生を支え合うコ
ミュニティの思想的拠り所 手
がかりとしての「対話」と「コ
ンパッション」、『現代宗教
2022』

講演で期待されている (と思われる) こと

1. コンパッション都市・コミュニティの**理論的な輪郭**を描く。
2. 「**コンパッション**」という**概念**に踏み込んで、これを身近なものにする。
3. コンパッション都市・コミュニティの**思想基盤**を探る。
4. **実践への示唆**を提供する。

弱さを支え合うコミュニティを築く ～コンパッションに導かれて～

1. コンパッション都市・コミュニティとは
2. 「コンパッション」とは
3. コンパッション都市・コミュニティを支える思想
4. 実践への示唆

1. コンパッション都市・コミュニティとは

●コンパッション都市・コミュニティとはなにか？

①運動のパイオニア・リーダーの回答

生命を脅かす病気、高齢、グリーフや死別とともに生きる市民がいます。また家庭でケアを担う市民がいます。そんな境遇にあるすべての市民を手助けし、支援するために組織される地域コミュニティ、それがコンパッション都市・コミュニティです。（アラン・ケレハー『コンパッション都市 公衆衛生と終末期ケアの融合』日本の読者へ）

→生老病死を支え合う地域に根ざしたコミュニティ
（生活支援・介助・看取り・グリーフサポート）

- ヨーロッパ、北アメリカ、英国連邦の多くの国で、またアジア諸国で、都市、町、村を舞台に、学校、職場、教会や寺院、各種サークルを拠点に、さらに当事者たちの社会的ネットワークを活用して、コンパッション都市・コミュニティの多様な運動が展開されている。
- 英国では、コンパッションコミュニティの全国組織（Compassionate Communities UK）が設立され、各地域で運動が展開される。
- 国際的な専門職連合（Public Health Palliative Care International）が組織され、隔年で国際学会を開催し、学術誌（Palliative Care & Social Practice）を公刊している。

<https://www.phpci.org/7th-international-conference>

Conference

7TH INTERNATIONAL
CONFERENCE

6TH INTERNATIONAL
CONFERENCE

5TH INTERNATIONAL
CONFERENCE

4TH INTERNATIONAL
CONFERENCE

3RD INTERNATIONAL
CONFERENCE

SAVE THE DATE

7TH INTERNATIONAL PUBLIC HEALTH PALLIATIVE CARE CONFERENCE

20-23 SEPTEMBER 2022 | BRUGES, BELGIUM
BRUGES MEETING & CONVENTION CENTRE

**DEMOCRATIZING CARING,
DYING AND GRIEVING:**
participation, action, understanding
and evaluation



MORE INFORMATION:
www.phpci2022.com



7TH PUBLIC HEALTH PALLIATIVE CARE INTERNATIONAL CONFERENCE

PHPCI 2022

20-23 September 2022, Bruges, Belgium

コンパッション都市・コミュニティは「エンドオブライフの政策決定の中央舞台」へ躍り出ようとしている（トニー・ウォルター『いま 死の意味とは』）。

- PHPCIについては、堀田聰子さんと土畠智幸さん（の方）が詳しい。
- 私は今年度、初めて参加し研究発表する。
‘What does it mean to be ‘compassionate’ ?
From the perspectives of a Japanese philosopher.
- Compassionate Communitiesの実際の活動についても、堀田聰子さんと土畠智幸さん（の方）が詳しい。
- 私はアランに紹介されて、Dr Emma Hodges（Development Director of at Compassionate Communities UK）をバーミンガムに訪問する予定。

1. コンパッション都市・コミュニティとは

●コンパッション都市・コミュニティとはなにか？

②Allan Kellehearのプロフィールから考える

グローバルに活躍する医療社会学者

〈1998年-2006年〉

ラトローブ大学（豪）教授

パブリックヘルスを基盤にした緩和ケアユニット創設

〈2003年-2004年〉

東京大学客員教授 オーストラリア学

講演「西洋の緩和ケアにおけるスピリチュアルケアの議論」

フィールドワーク（部落、在日韓国・朝鮮人など）

〈2006年-2011年〉

バース大学（英）教授 社会学講座

〈2011年-2013年〉

ダルハウジー大学（加）教授

〈2013年-2014年〉

ミドルセックス大学（英）教授 コミュニティヘルス講座

〈2014年-2019年〉 ブラッドフォード大学（英）教授

〈2019年-現在〉

バーモント大学（米）臨床教授

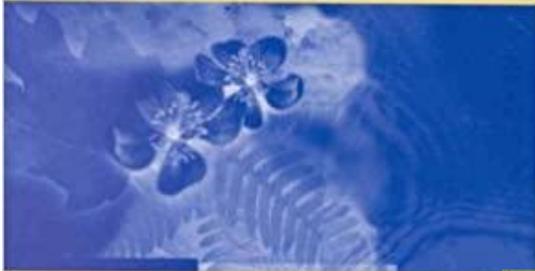
【研究業績】

著書30冊、論文100本以上

【キーワード】

「死」「死にゆくこと」「エンドオブライフ」「緩和ケア」
「パブリックヘルス」「健康増進型緩和ケア」「臨死体験」

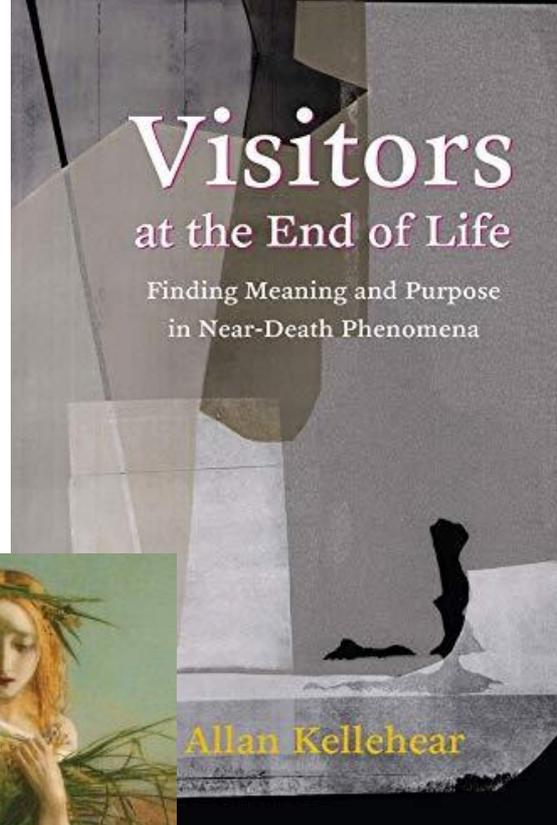
Health Promoting Palliative Care



2007

Visitors at the End of Life

Finding Meaning and Purpose
in Near-Death Phenomena

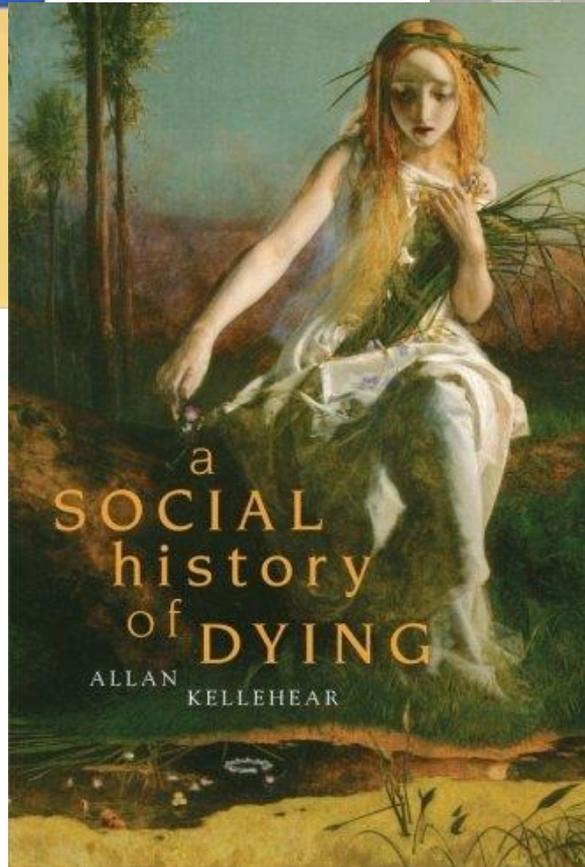


2022

Allan Kellehear

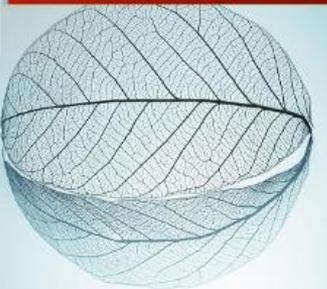
OXFORD
UNIVERSITY PRESS

1999



Allan Kellehear

2020



OXFORD TEXTBOOKS IN PALLIATIVE MEDICINE

Oxford Textbook of

Public Health Palliative Care

EDITED BY
Julian Abel
Allan Kellehear

●コンパッション都市・コミュニティとはなにか？

③「健康都市」を批判的に発展させたもの

オタワ憲章（1986）

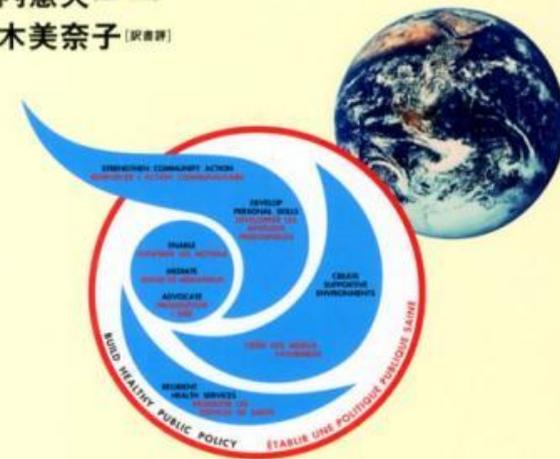
- ビジョン「2000年までに、また2000年以降も、すべての人びとに健康を」
- 健康増進の観点から新しいパブリックヘルス運動を提唱する
- 古いパブリックヘルス（第1波）
→新しいパブリックヘルス（第2波）
- 「健康」への社会生態学的アプローチ～自然・社会環境とコミュニティ
- 健康都市プロジェクト
→日本からは41都市3団体が加盟（2020年現在）

〈新装版〉21世紀の健康戦略シリーズ1・2

ヘルスプロモーション

WHO:オタワ憲章

島内憲夫 [編訳・解説]
鈴木美奈子 [訳書評]



HEALTH PROMOTION
WHO: Ottawa Charter
Norio Shimanouchi & Minako Suzuki

垣内出版

監訳者解説より

オタワ憲章とそれを受けた健康都市プロジェクトでは、画期的な「健康」の考え方が提唱される。しかしその枠組みからは、「死、死にゆくこと、喪失の経験」が排除される。ここには、死を「失敗」と捉える旧来の考えがなお影を落としているのだ。

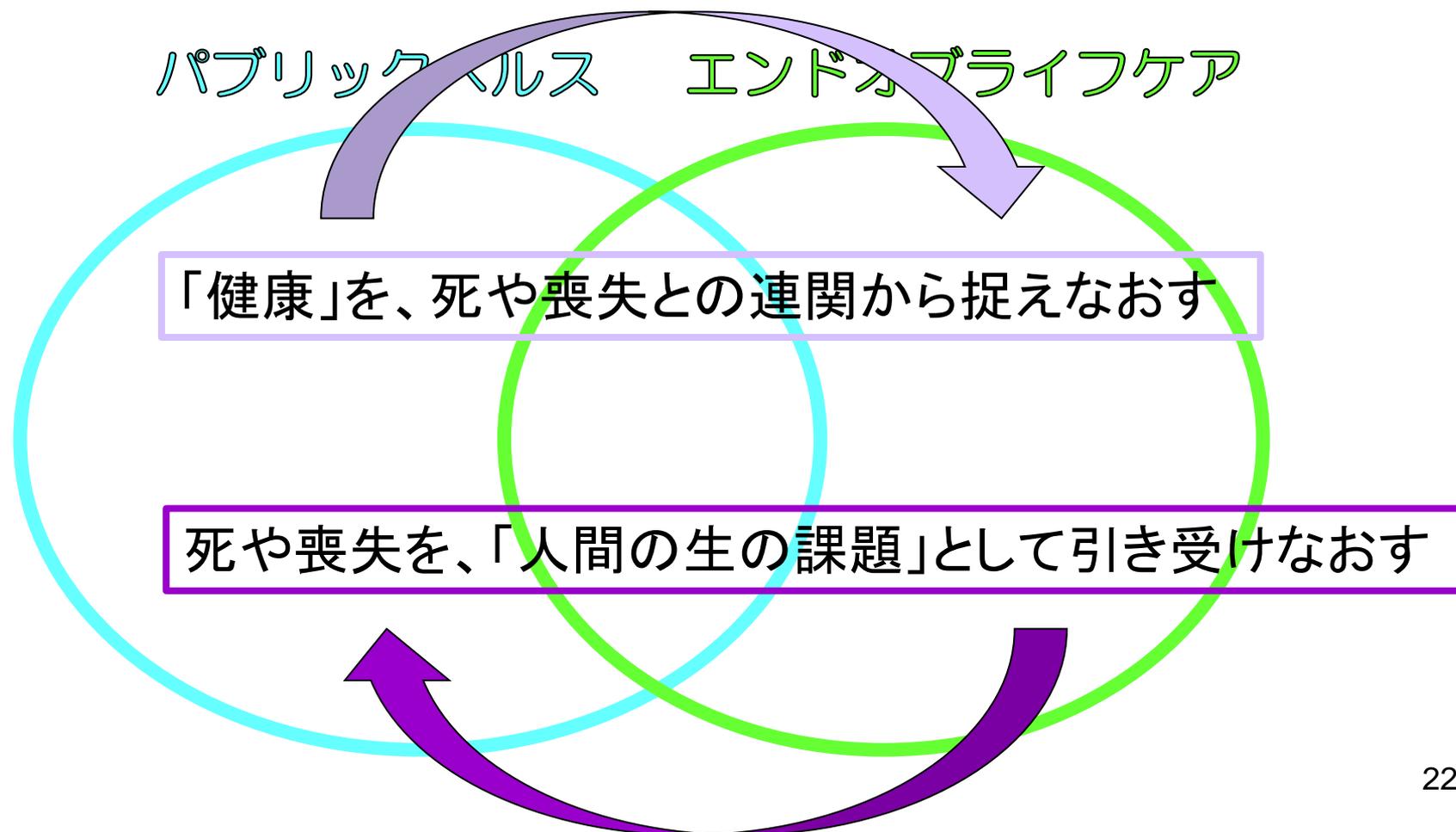
老化を重ねても、病や障害を抱えていても、コミュニティの支えがあれば、人は健康に生きられる。さらに大切な人と死別したとしても、自らの死が迫っていようとも、自然・社会環境が整備されていれば、人は最期まで健やかに生きることが出来る。わたしたちはだれひとり老病死を免れず、喪失の経験を避けて通ることができない。これらは「わたしたちすべてが共有する普遍的な経験」、「人間の日常的な」。

経験」である。それを度外視することは、人間であることを無視するに等しい。

こうして著者は、死、死にゆくこと、喪失の経験を包摂するように、「健康」をさらに包括的に捉える。こうした意味での「健康」を実現するためには、コンパッションの働きが欠かせない。死と喪失という人間的な経験は、コンパッションを通して共有されるからだ。

(略) 死にゆく人とその家族・友人とつき合うことで、死と喪失に慣れ親しむ機会が与えられる。死、喪失、グリーフに共同で応答することで、絆が深まり、互いに支え合う拠り所が築かれる。苦難の経験を共有することで、人間としての連帯が育まれる。

●コンパッション都市・コミュニティとはなにか？
④パブリックヘルスとエンドオブライフケアを
融合したもの



パブリックヘルス

第1波

組織的行動(衛生行動、隔離、消毒など)を通じた衛生環境の改善、清浄な水の供給、感染症の封じ込め

第2波

- 食事、タバコやアスベストなど周辺環境の有害物質、職場における健康と安全など
 - 喫煙、注射針の使い回し、過食、座りっぱなしの生活スタイル等の危険、アスベストや紫外線の危険に曝される環境など
- ➡ 個人とコミュニティの教育の意義
- ➡ パートナーシップ、コミュニティとの関係、保健サービスの仕組み、各人のスキルなどの社会基盤

生活習慣・
スタイル

COVID-19に際しての日本(世界各国)の対応は？

エンドオブライフケア

【注目される背景・理由】

- ◆長寿化にともなう「死へ至る軌道」の変化
- ◆主要な死因のシフト：「慢性・終末期疾患」から「衰弱による死」へ
- ◆「フレイルfrailty」（加齢にともなう心身機能と生理的予備能の低下）
- ◆延長された死にゆく過程（衰弱＋認知症）をどのように支え合い、生きるかという問題



エンドオブライフケア

【どう理解するか】

◆「人生の最終段階のケア」という訳語の問題

人生の「終わり」(end) ≠ 「最終段階」(final stage)

「最終」＝「最も終わりであること、いちばん終わり、最後、しまい」(『日本国語大辞典』)～「終末期」

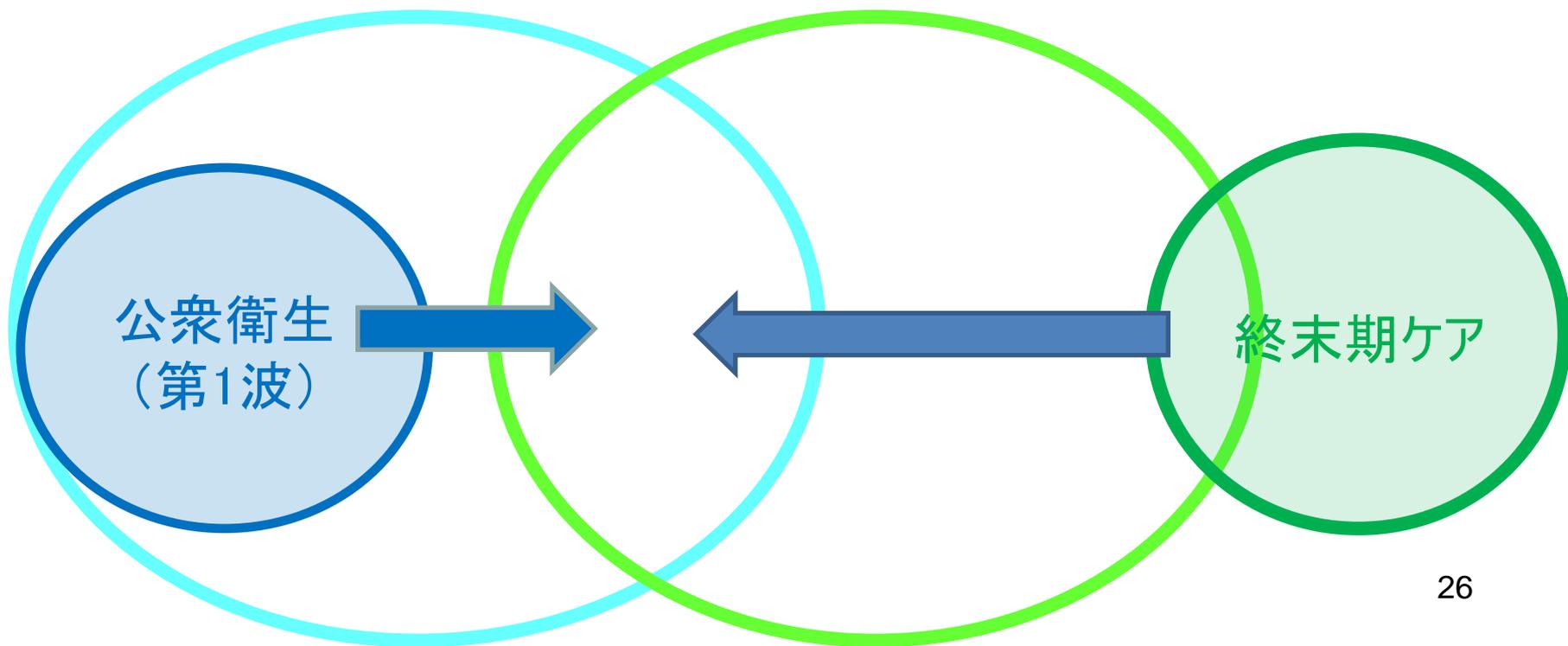
旧来の「終末期」(terminal)と区別して、エンドオブライフ(end of life)という概念を新たに導入する意義が薄れてしまう。

◆医学的に定義されない

「人生の終わり」にあるかどうかは「生き方や価値観、また人生観・死生観」に基づいて、当人が判断する～疾病構造の変化と境遇・価値観の多様化に呼応

日本の現状では、コンパッション都市・コミュニティの理論的足場の構築は、（第2波の）「パブリックヘルス」と「エンドオブライフ」をまず確立するところから始まるのか。

パブリックヘルス エンドオブライフケア



2. 「コンパッション」とは

●コンパッションとはなにか？

①アランの回答

- 「コンパッション」という近代語は、ラテン語の二つの語根、‘cum’（共に）と ‘patior’（（苦を）身に負う）に由来する。語源を踏まえれば、コンパッションとは、「他者と苦しみを分かち合うこと」、「他者の苦しみを 耐え忍び、苦しみを担い支えること」を意味する。

- コンパッションは「他者の苦悩や苦しみに突き動かされる」、「柔らかな人間的応答」である。困難に際して、助力や支援の手を相手にさし伸べようとするとき、コンパッションが「道徳的、社会的、政治的、身体的な基礎」となる。だれもが免れない死と喪失の支え合いは、コンパッションとともに可能になる。
- コンパッションから共感（empathy）と具体的行動（action）が育ち、死生を支え合うコミュニティが生み出される。

※コンパッションと共感との違いは？

※両者の関係は？

※コンパッションにはどんな力がある？

●コンパッションとは？

②神話学者J・キャンベルの回答

- ◆コンパッションは、生きることを可能にする「癒しの原理」である。
- ◆菩薩 (bodhisattva) はコンパッションを体現している。菩薩はコンパッションに導かれて、他者と共に苦しみ、他者の悲しみを共有する。



菩薩とは、「不死を知りながらも、時間の断片にすぎない領域に自発的に身を投じ、自らの意志で、喜んで、世界の悲しみに与る者」である。

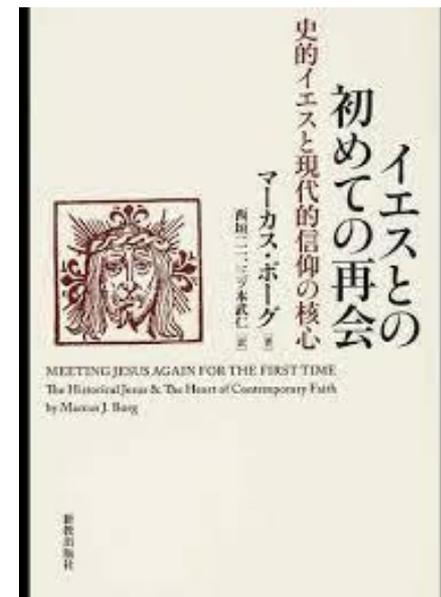
◆中世の聖杯伝説は、キリスト教の「コンパッション」の思想系譜の中心に位置する。

中世の神話で重大な瞬間は、コンパッションに対する心の覚醒、つまり受難（passion）のコンパッション（compassion）への転換である。これこそが傷ついた（wounded）王に対するコンパッションという聖杯物語の全体的な問題なのだ。（略）神の子がこの世界へやっ来て十字架にかけられることで、わたしたちの心をコンパッションに目覚めさせた。こうしてこの世界での野卑な生活を彩る醜悪な関心事から、自己を投じて苦しみを分かち合うという格別に人間的な価値へ、わたしたちの精神の向きが変えられる。その意味で傷ついた王、聖杯伝説に登場する障礙を身に負った王は、キリストに相当する存在である。彼はコンパッションを呼び起こし、死せる荒地地に生命をもたらすために存在するのだ。

●コンパッションとは？

③イエス研究者M・ボークの回答

- ◆コンパッションはイエスの活動とコミュニティの中核を占める。神の「聖性」(holiness)を基準に、多種の境界を引く排他的な社会に替えて、イエスは神の「コンパッション」に倣い、他者を受け入れる包摂的な社会を実現しようと挑戦する。



「あなたがたの父が憐み深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」(ルカ6章36節)

- ◆ヘブライ語・アラム語の「コンパッション」は、その単数形が「子宮」を意味する名詞の複数形として表記される。

●コンパッションとは？

④禅僧・人類学者J・ハリファックスの回答

- ◆コンパッションとは、「そこから解放されるという願いを抱きつつ、苦しみ (suffering) の真相に向き合う能力」である。
- ◆それは「心身のかかわりから生まれる、一連の編み合わされたプロセス」である。共感 (empathy) はそのプロセスを構成する不可欠な要素である。

共感疲労
共依存

「苦しむあなた」を、「苦しみと無縁のわたし」が助けるのではない。わたしはあなたと「異なった仕方」で、「苦を共に身に負う」



●コンパッションとは？

⑤講演者の展望

「コンパッション」はヘブライ思想・キリスト教と仏教・インド思想のいずれの伝統にも限定されない。もっと大きな広がり、ある種の普遍性が認められる。現にあらゆる「神話」は、キャンベルが報告するように、苦とともに生きる知恵を伝えている——「どのように苦しみと向き合い、苦しみに耐え、苦しみを解釈するか、神話はわたしたちに教える。しかし、苦しみのない生が可能である、生きることに苦しみがあってはならないなどといわない」。なぜか？

「一切の苦しみの秘かな原因」は、生の根本条件である「死すべき定め」（mortality）にあるからだ。

人間として生きることをやめないかぎり、苦を免れることはできない（四苦）。もし安らぎを得たいならば、苦しみを否定せず、苦とともに生きることだ。コンパッションを抱いて、他者とともに苦を身に負って生きることは、すべての人に広く開かれた公道である。

※東アジアのコンテクストについては後ほど

2. 「コンパッション」とは

● 共感とコンパッションの違いは？

【共通点】

自己を開いて他者の経験を尊重する

【共感の危険】

共感是他者と同化し、一体化しようとする。それゆえ共感だけでは自他の区別を見失ってしまう。他者の他性が見失われ、「共感疲労」に陥ってしまう。

【コンパッションの役割】

自他の間に境界線を引き、共感を適正に方向づける。

過度の共感（同化）反応が調整されれば、他者に対する健全な関心が（ふたたび）芽生える。自分が他者ではないことを認識すると謙虚になり、自他の重なり合いを認めながら、自他を区別することができる。

【コンパッションと共感の対比（ハリファックス）】

共感	feeling into another
コンパッション	feeling for another

ナイチンゲール：『看護覚え書』

ソンドース：「私と共に目を覚ましていなさい」

【語源的な対比】

- ◆ ‘empathy’ という英語は、Einführung’（移入）という独語に由来する。この語は当初、美学分野で「芸術作品に自己の感情を移し入れる」という意味で使われていたが、他者に適用され、心理学・社会学分野で使われるようになった。
- ◆ ドイツ語のギリシア語源 ‘empathia’ —— ‘en’（内へ）と ‘pathos’（感情）の合成語——に示されるように、共感とは、他者のうちに自分を移し入れることで、他者を自らのうちに取りこむ。そのようにして他者が（身体、情動、認知を介して）経験していることを感取する。
- ◆ ‘compassion’ という英語は、すでに確認した通り、‘compatior’ というラテン語の動詞に遡る。語源に基づけば、コンパッションは「他者と苦しみを分かち合うこと」、「他者の苦しみを耐え忍び、苦しみを担い支えること」を意味する。

3. コンパッション都市・コミュニティを支える思想～アランの言葉を引きながら

① 課題・困難を分かち合い、助け合う

生命を脅かす病気や死別の経験とともに生きること、また介護を引き受けて生きること、これらの社会的な帰結は似通っています。社会的孤立、孤独、不安、うつ状態、学校や仕事に出かけられない日々、恥辱やスティグマ（社会的烙印）、財政的困窮、疲労、多発性の病気です。（略）隣近所、学校、職場で、必要なときに、適切な支援が得られるならば、これらの問題はいずれも予防されるか、すくなくとも害悪を低減されるでしょう。

各人の苦難や危機に備えて方策を練るため、隣近所、学校、職場は学ぶことができます。（略）もし人生の終わりに対するいくらかの責任をすべての人が負うならば、わたしたちは愛、笑い、共有、実際的な支援を授受することができます。

（略）友人、家族、同僚は自分たちの経験の「正常」な面を理解し、どこで専門的ないし追加的な支援を得られるかを知ることができます。こうして人生の終わりに対して、一人ひとりの市民が責任を負うことができるのです。

②「専門職化」と「施設（病院）化の手前で考えておくべきこと

- わたしたちはしばしば、死と喪失を心理専門職の手にゆだね、まさにそれによって、死は個人のプライベートな事柄であるという誤った考えを補強してしまう。
- 死すべきものである（mortality）という課題をわたしたちはホスピス・緩和ケアに引き渡し、人生の終わりのケアはターミナルケア——人生の最後の数週ないし数日に限定されたケア——にすぎないという同じく間違った印象を、ホスピス・緩和ケアの内外に与えてしまう。

- これら二つの専門職のストーリー展開に乗ってしまえば、喪失は普遍的な課題として、あるいは死、死にゆくこと、喪失はどこにでもみられる普通の事柄として、もはや語られなくなる。重大な災害でも起きないかぎり、個人の死と喪失はコミュニティの経験として受けとめられることはまずない。
- もし人生の終わりにコミュニティが再び関与する方途をみつけられないとしたら、自宅の戸口に立ち、わたしたち一人ひとりにサービスを提供する専門職の列は、途絶えることがないだろう。地域の保健サービスを利用する以前は、どんな人でも多面的な関係のうちに身をおき、これを享受していたはずである。

- しかしコミュニティの関与を欠くと、専門職の関与は、多面的な関係を合理化し、その乏しい代用物になってしまう。これが死の「専門職化」(professionalization)であり、それを継続するための社会・経済的費用は、途方もなく大きい。
- 私たち引き続き、医療・福祉専門職の拡充を図るのか。専門職のリストはいったいどこまで続くのか。わたしたちは、死生を支え合うという課題を職業的な対応に書き換えるだけでよいのか。

③コンパッションに導かれてコミュニティで支え合う

- 終末期ケアのモデルを「専門職によるサービス提供」(service delivery) から「コミュニティ形成」(community development) へ、転換する時機を迎えているのではないのか。
- だれかが困難を抱え、厄介な課題に直面するとき、コミュニティメンバーで支え合い、学び合うことはできないのか。死にゆく者につき合い、「死」と向き合うことで、一人ひとりが「死とともに生きる」ことを学ぶ機会に恵まれるだろう。生と死の諸課題を共有することで、かけがえのない出会いが生まれ、コミュニティが再生するだろう。

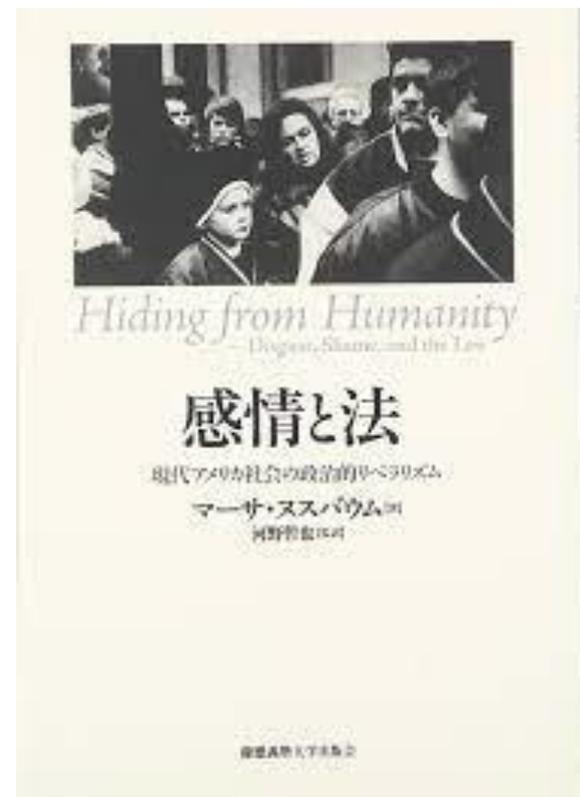
④人間であることに不可避な「弱さ」とともに生きる

- わたしたちの身心は脆く傷つきやすい。だれもが老い、病を得て、死んでいく。そのような者として人間を理解し、相互の存在を受けとめるとき、自他に対するコンパッションが生まれる。コンパッションは苦しみの経験を通して育まれる。それが他者の苦悩や苦痛であれ、あるいは自身が抱える苦難であれ、「苦」と出会うとき、正直に、正面からそれと向き合うならば、そこから学ぶことができる。

- コンパッションは「そこから解放されるという願いを抱きつつ、苦（suffering）の真相に向き合う能力」であり、「わたしたちが自分自身および他者の苦しみと出会い、それらに適切に応答する助け」となる（ハリファックス）。
- コンパッションは、たとえば病む者と看病する者、死にゆく者と看取る者、それぞれに支え合いの紐帯を与え、不安や恐怖から解放する。

⑤ハードボイルド（「強さ」）からの解放

わたしが求めているのは、自分自身の人間性を認識し、その人間性から目を背けることなく、またわたしたちの前からそれを隠すこともない社会である。そうした社会とは、自分が貧困で脆弱であることを認める市民たちの社会である。それは公的にも私的にも、とても多くの人間の苦悩の中心にあり続けてきた全能性と完全性への夜郎自大な願望を放棄する市民たちの社会である。



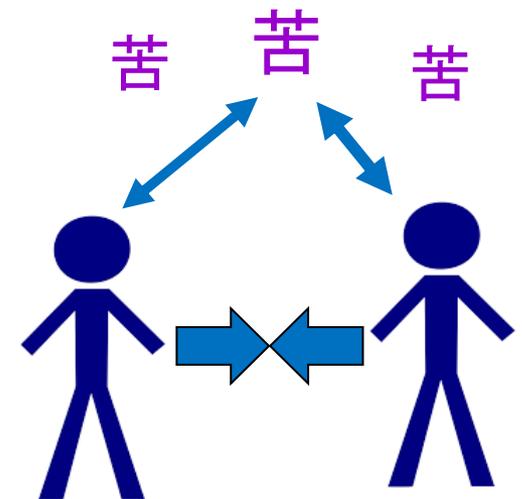
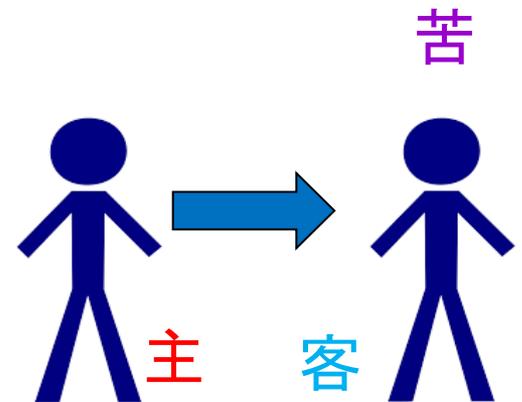
身のほど知らずの

4. 実践への示唆

① コンパッションとケアの違い

●Northern Ireland Hospiceのホスピス医長との対話(2016年9月10日FACEBOOK)

彼はCAREという言葉に批判的でした。「やってあげる」という発想は、自己への省察を欠くことが多い。これに対してCOMPASSIONという概念は、自他に対する慈悲の可能性に開かれている。ここで「慈悲」と訳したのは、彼自身がアジアでの生活経験にふれ、“Buddhism”と口にしたからです。



●アランの洞察

ケレハーは語源を手がかりに、「コンパッション」と「ケア」の発想的な違いを指摘する。両語は各人の「内的なグリーフという主要な意味」を共有するが、ケアには「他者に与えられた痛みや困難の感受」が欠けている。ケアの原動力は、他者の苦しみではなく、ケアする者自身の苦しみにあるのだ。さらに治癒 (cure) との語源的連関に目をとめれば、ケアからは、「健全な人が病む人を助ける、「専門職」が素人を助ける、知識を有する人が無知な人を支える」という「手助けについての不均等な理解」が浮かび上がる。

② 「コンパッション」の訳語について

「公道」・「普遍性」

→各々の文化・宗教的コンテクストに応じて！

- 「**共感**都市」（山崎浩司）
- 「**慈悲**共同体」（堀江宗正）
- 「**憐み**」「**惻隠の情**」「**いたみ**」（痛み・悼み）

※特定の伝統・専門職域に回収しないことが重要

→「コンパッション」「共に苦を身に負う」

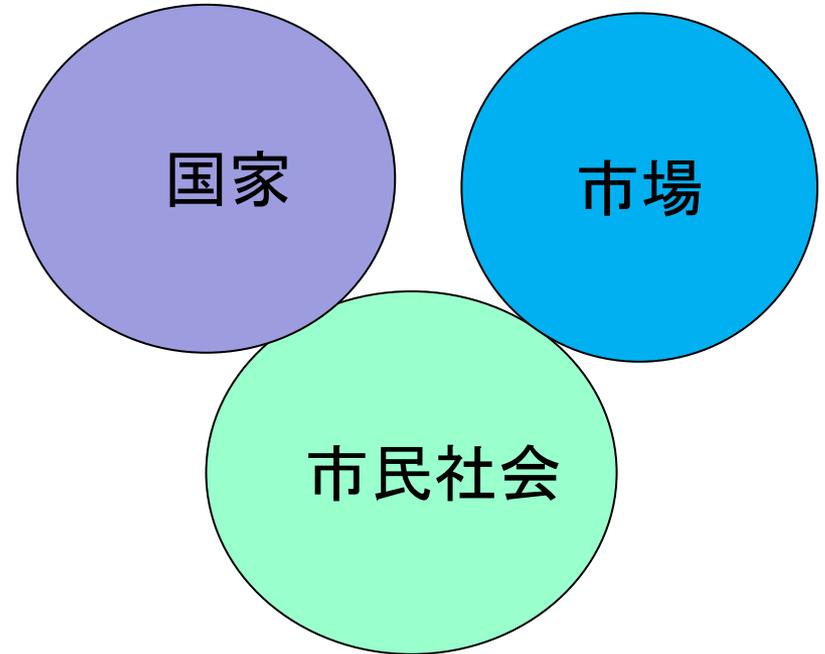
③ コンパッションと対話

- 死すべきものたちは脆く傷つきやすい。学び合い、互いの身心を支え合いながら、生と死の諸課題に対処していくほかない。「対話」を通して学び合い、「コンパッション」に導かれて支え合うのだ。
- コンパッションと対話は、互いを必要とする。「わたし」は「あなた」ではないから、「あなたの痛み」を、身をもって知ることはできない。だからこそ「わたし」は、「あなたは……ですか？」と尋ねるほかない。この問いかけとともに、「わたし」の探究が始まり、「わたし」は「あなた」の言葉に虚心に耳を傾ける。

- この問いかけの有無、つまり自他の区別と不知の自覚がコンパッションを共感から、対話を会話、議論、討論から分かつ。
- 死はすべての人に不可避にかかわる。すべての人が「当事者」として、外部から押し量ることのできない多様な課題を抱えている。しかもそれらは決して他人事でない。にもかかわらず死について人間は、肝心なことをほとんどなにも知らない。すべての者は不知を免れない。死別経験者やがんサバイバーも例外ではない
- だからこそ「対話」を通して学び合う必要がある。「共感」ではなく「コンパッション」が求められる。死の諸課題は、自他の区別と不知の自覚を要請するのだ。

④コンパッション都市・コミュニティの可能性

力を合わせて課題に対処することで、支え合いの絆が強化される。かけがえのない出会いが生まれ、コミュニティが再生する。市民社会の足場が強固になれば、行政サービスや商品化されたケアに問題解決を全面的に委ねる必要がなくなる。弱さを支え合うコミュニティの足場が築かれる。



地域包括ケアシステム

弱さを支え合うコミュニティ
～コミュニティの再生～